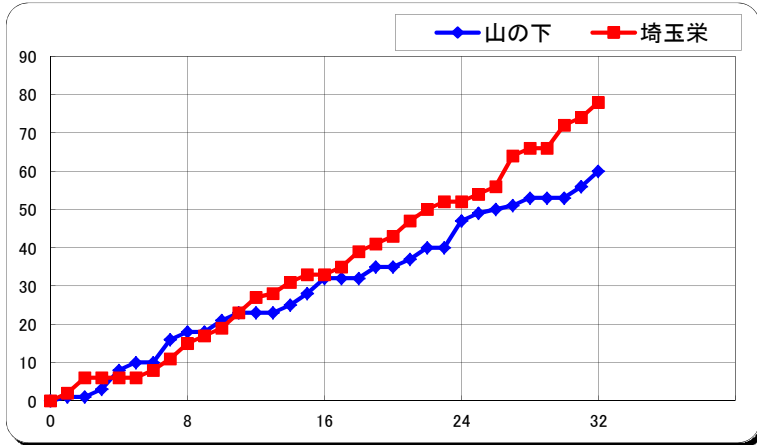




【得点経過】



大会名	東日本大震災復興支援平成24年度全国中学校体育大会第42回全国中学校バスケットボール大会																
会場	さいたま市記念総合体育館																
日時	平成24年8月22日(水) 9:30																
コート	Dコート 第1試合																
カテゴリ	女子 予選Lリーグ																
主審	向井 和宏 (東京都)																
副審	若林 謙作 (栃木県)																
Team A		Team B															
山の下	60	78 埼玉栄															
(新潟県)		(埼玉県)															
	<table border="1"> <tr><td>18</td><td>1st</td><td>15</td></tr> <tr><td>14</td><td>2nd</td><td>18</td></tr> <tr><td>15</td><td>3rd</td><td>19</td></tr> <tr><td>13</td><td>4th</td><td>26</td></tr> <tr><td colspan="3">OT</td></tr> </table>	18	1st	15	14	2nd	18	15	3rd	19	13	4th	26	OT			
18	1st	15															
14	2nd	18															
15	3rd	19															
13	4th	26															
OT																	

【BOXスコア】

Team A		山の下						
番号	選手名前	出場	得点	3P	2P	FT	反則	
4	須戸 友香	×	22	3	5	3	1	
5	志賀 伊吹	×	17	1	7	0	1	
6	小田 桃花	×	2	0	1	0	3	
7	高橋 美雅	/	0	0	0	0	2	
8	五十嵐 茉帆	×	15	0	4	7	3	
9	後藤 彩奈	DNP	0	0	0	0	0	
10	若月 聡美	DNP	0	0	0	0	0	
11	斉藤 里奈	×	4	0	1	2	1	
12	小林 桃佳	DNP	0	0	0	0	0	
13	貴船 亜純	DNP	0	0	0	0	0	
14	高澤 咲菜	DNP	0	0	0	0	0	
15	木村 胡桃	DNP	0	0	0	0	0	
16	神田 結菜	DNP	0	0	0	0	0	
17	金子 芽生	DNP	0	0	0	0	0	
18	神田 理菜	DNP	0	0	0	0	0	
監督	野村 薫						0	
コーチ	土屋 芽依						0	
			60	4	18	12	11	

Team B		埼玉栄						
番号	選手名前	出場	得点	3P	2P	FT	反則	
4	佐々木 春奈	×	9	0	4	1	2	
5	古川 夢子	×	28	0	13	2	2	
6	亦野 朋香	×	7	0	3	1	2	
7	島田 茜	/	0	0	0	0	0	
8	篠原 理那	/	0	0	0	0	1	
9	中屋 明	/	4	0	2	0	0	
10	角田 祐季	/	0	0	0	0	0	
11	馬場 なな子	DNP	0	0	0	0	0	
12	相澤 奏音	DNP	0	0	0	0	0	
13	弘重 綾野	×	17	1	7	0	1	
14	梶原 理奈	×	9	0	4	1	4	
15	山岸 奈々	DNP	0	0	0	0	0	
16	上澤 瑛	DNP	0	0	0	0	0	
17	高橋 理佐	/	2	0	1	0	1	
18	神山 夢来	/	2	0	1	0	0	
監督	一ノ瀬 和之						0	
コーチ	中山 明日実						0	
合計			78	1	35	5	13	

【戦評】

北信越代表新潟山の下と関東代表埼玉栄との予選リーグ1試合目のゲーム。山ノ下オールコートマンツーマンDef、埼玉栄ハーフコートマンツーマンDefでスタート。立ち上がり埼玉栄がペースをつかみ、6-1とリードした時点で山の下がタイムアウト。山の下は外角からのシュートを多用しながらペースを変えていき、18-15と3点リードで1Pを終了。2Pも互いにDefを変えずにスタート。埼玉栄は速攻が決まりだし、徐々にペースをつかむ。山の下も#4、#5中心の攻撃で必死に食らいつき、32対33と埼玉栄1点のリードで前半を終了。

3Pは埼玉栄のペースで始まる。埼玉栄の徹底した速攻に山の下がやや遅れがちになり、徐々に点差が広がっていく。残り3分の時点で37対47。その後、山の下がオールコートプレスDefで対抗し、47対52で3Pを終了する。4Pは埼玉栄の激しいハーフコートマンツーマンDefからの速攻を中心としたペースで始まり点差を広げていく。埼玉栄#4のスチールからの速攻やドライブインシュート等の攻守で活躍が光り、あっという間に51対64と点差を13点になる。山の下もオールコートのプレスDefで必死に食らいつくが、差は縮まらない。最後は埼玉栄は控えの選手を使う余裕を見せ、60対78でタイムアップ。埼玉栄がオープニングゲームに勝利した。

【戦評記入者】

菅家 真吉

埼玉県中学校体育連盟 バスケットボール専門部